

論文審査の結果の要旨

令和 2 年 2 月 19 日

現在、世界的に中国の銀行業のプレゼンスが、中国政府の対外開放政策の促進を受け、高まりつつある。また、2019年8月に中国銀行保険監督管理委員会が公表したデータによると、中国工商銀行、中国農業銀行、中国銀行、中国建設銀行及び交通銀行の大手国有5大商業銀行が、銀行業全体に占める資産総額は、37%と市場集中度の改善がみられ、銀行業の多元的なサービスシステムの構築がほぼ達成できたとも言われている。このような時代的背景の中で、中国商業銀行の所有構造の差異(国有銀行か非国有銀行か)が、銀行の企業業績に及ぼす影響を明らかにしようとした本論文は、非常に時宜に適った研究成果である。

本論文は、主としてここ5年以内の直近の先行研究とは言え、先行研究を丹念にサーベイし、本論文の立ち位置を的確に示している。また、中国の商業銀行の歴史的な発展過程を踏まえ、中国の商業銀行の特徴を画定し定性的及び定量的な分析を通じて、社会主義的市場経済での国有商業銀行と非国有商業銀行との並立する理由を解明している。本論文の結論を先取りすれば、所有構造の異なる商業銀行の並立は、中国の金融市場の健全な競争の促進・市場の業務リスクの減少・資本市場の効率性の向上に資するとの解釈である。

本論文の研究方法は、包絡分析法(DEA)と多変量回帰分析とを併用している。2007年から2018年までの11年間の中国の代表的な12の商業銀行が調査対象となっている。特に所有構造の分析に当たっては株主の保有株比率・大株主の状況及び銀行経営トップと政府との政治的関与(political connection)という非財務的データも活用している。サンプル数が少ないとはいえ、科学的な再現可能性=検証可能性のある論文に仕上がっている。

本論文は学術論文としての体裁を整え、定性的・定量的な客観的証拠で裏付けられた独自性のある研究成果であると評価できる。今後は、統計検証の堅牢さを高めるために、サンプル数や回帰モデルの精緻化を更に図ってもらいたい。

以上、本論文は博士(経営学)の学位論文として合格と認める。

主査(職・氏名) 教授 染谷 芳臣